

令和8年 上富良野町議会第1回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏名	質問事項
1	3番 湯川 千悦子	1 民生委員・児童委員の活動費について 2 道の駅構想について
2	5番 金子 益三	1 陸上自衛隊上富良野駐屯地のさらなる拡充対策は 2 上富良野学校給食センターの今後は
3	1番 佐藤 大輔	1 道の駅設置に向けた取組の進捗状況について
4	6番 林 敬永	1 クマ対策について 2 太陽光発電のトラブルを防ぐために独自条例の制定について 3 避難所におけるアレルギー対策について
5	10番 井村 悦丈	1 小中学校のスキー授業の推進及びリフト（索道施設）を活用した観光振興について
6	8番 中瀬 実	1 町道の維持管理について 2 空き家対策について 3 全国学力・体力テストについて
7	12番 小林 啓太	1 人口減少対策としての子育て支援に関して
8	7番 茶谷 朋弘	1 持続可能な地域経済の構築に向けたデジタル地域通貨の導入について 2 上富良野町におけるスポーツ振興を支える運動環境の整備及び指導体制の強化について
9	2番 荒生 博一	1 観光振興策について
10	4番 米澤 義英	1 クリーンセンターについて 2 終活情報などの登録事業について 3 合葬墓について 4 日本語学校について

一般質問通告書(令和8年3月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1 3番 湯川 千悦子 1 民生委員・児童委員の活動費について (町 長)</p>	<p>核家族化が進み、地域社会のつながりが希薄になる中で、民生委員・児童委員は、高齢者や子ども、障害のある方、子育て中の方など、地域住民の身近な相談相手として重要な存在です。また、行政や福祉サービスとの「つなぎ役」として、必要な支援を届ける役割を担っています。</p> <p>町民にとって大変重要な役割を担うよう、様々な相談や日常的な支援、訪問や連絡活動、実態調査、地域福祉活動への関わりなど、多岐にわたる活動にあたられています。</p> <p>そのような中、全国的に民生委員・児童委員の「なり手不足」と「高齢化」が課題となっています。また昨今、活動範囲の広がりが増えているとの意見もあり、無報酬ではあるものの、物価高騰等に伴い、活動費の見直しが必要と考えます。</p> <p>以下の4点について町長に伺います。</p> <p>(1) なり手不足と一般的に言われていますが、わが町の実情は如何か。また、民生委員・児童委員の活動実態をどのように認識しているか。</p> <p>(2) 活動費は委員月額1万円となっていますが、他町村の状況は如何か。また、見直しを検討されないか。</p> <p>(3) 委員の活動には車両の使用が不可欠と考えますが、車両の使用状況や燃料費の負担状況は如何か。また、事故が生じた場合の対応はどのようになっているのか。</p> <p>(4) 多様化する相談等に対応する為にも委員の資質向上が重要と考えますが、研修等の取り組み状況は如何か。</p>
<p>2 道の駅構想について (町 長)</p>	<p>齊藤町長は、一期目の公約から道の駅構想について掲げました。2期目に入り、先日の自身の町政報告会においても、道の駅についての公約を話されていました。しかしながらこの間、道の駅について観光協会をはじめ、商工会やJA等との具体的協議がなされているのでしょうか。一向に進んでいない道の駅構想ではないのですか。</p> <p>これまで行われた一般質問への答弁では、立地や時期は高規格道路である、旭川十勝道路のインターチェンジが決まったのちに決定したいとのことではありますが、ようやく中富良野・上富良野間が計画段階評価路線に上がった現状では、あまりにスピード感が無く、高規格道路のインターチェンジ決定に合わせるには、やらないと言っているようなものではないのでしょうか。</p>

	<p>先日行われた、議会懇談会でも、多くの町民から道の駅に対する意見が寄せられていました。</p> <p>町長の道の駅構想に対する具体策を、以下の3点について伺います。</p> <p>(1) 高規格道路のインターチェンジが決定後に場所を決定すると言っていますが、いつ、誰が、どのような方法で意思決定を行っていくのですか。また、取り組む時期は遅すぎないのですか。道の駅構想は町長の公約と認識しますが、今後進めていく上において、町民の意向把握が重要と思います。それへの取り組みは考えていますか。</p> <p>(2) 実際に道の駅の基本構想を策定する段階で、予算などの規模はどの程度を考えていますか。また、その財源はどのように手配をしていくのですか。</p> <p>(3) 現在道の駅は、様々なコンテンツを用いて特徴ある運営をしていますが、町長が考える我が町の道の駅の集客要素のキラーコンテンツは何を考えていますか。</p>
<p>2</p> <p>5番 金子 益三</p> <p>1 陸上自衛隊上富良野駐屯地のさらなる拡充対策は (町 長)</p>	<p>2022年12月16日に岸田内閣と国家安全保障会議によって閣議決定された「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」の3つの文書で構成され、日本の外交・防衛政策の基本方針を定めたいわゆる、安全保障に関わる防衛三文書により新しい部隊である高速滑空砲の部隊が新編され、2025年に我が町上富良野町及び九州に配置が決定された。</p> <p>このことは、我が町にとっても隊員が新たに配属されるなど、人口減少時代にとって大変ありがたいことである。また、防衛力強化によって我が町にある多田弾薬支処に対して処遇が改善されるなどの予算も大きく措置されたことも我が町にとっても有意義なことと考える。</p> <p>この間、前町長はもとより歴代の町長議長を初め富良野地方自衛隊協力会役員の皆さまによる、熱心な要望陳情活動の賜物であると感謝するところであり、昨年70周年を迎えた上富良野駐屯地と富良野地方、とりわけ上富良野町との深い関係は今後とも絶えることなくより強い絆で結ばれなくてはならないと考える。そこで、更なる陸上自衛隊上富良野駐屯地規模拡充における、今後の活動について伺う。</p> <p>(1) 部隊改編が行われながら、現状の規模を堅持しつつ、新しい部隊の誘致によって新隊員の確保につながって来たが、今後宇宙・サイバー・電磁波といった新領域に関する分野への安全保障に関する部隊等の誘致などを行う考えはないか。</p>

	<p>(2) 上富良野駐屯地、多田弾薬支処、演習場を包括的に拡充するためにどのように働きかけを進めていくか。</p> <p>(3) 現在町外から通勤している隊員諸官が今後、町内に在住していただけるような方策はどのような考え方を持つか。</p>
<p>2 上富良野学校給食センターの今後は (教育長)</p>	<p>給食センターは昭和 54 年 12 月完成、55 年 1 月から運用が始まって、建設から既に 46 年が経過している。これまでも職員や調理員の努力によって児童生徒たちに安全安心である給食を提供してきた。また、地産地消の食材や、食を通じた食育の推進など、児童生徒の心と体の豊かな成長に大きく貢献してきたかけがえのない大切な施設と考える。</p> <p>平成 21 年からは富良野広域連合に運営が委ねられたが、依然として自賄による経営が進められ、老朽化による建て替えなどの方策も広域連合では合意形成がなされず棚上げである。</p> <p>近年は、町内の小中学校のみならず上富良野高校存続のためにも希望者に給食サービスを行うなど町独自の努力も見られる。その一方で躯体の老朽化による夏の暑さや冬の寒さの中での学校給食を提供する調理員の方たちのご苦勞も相当なものと感じているが、今後の上富良野学校給食センター運営の考え方について伺う。</p> <p>(1) 建設 40 年を超える給食センターは躯体の老朽化が進むが、調理員の健康管理上もエアコン設置なども含め早急な対策が必要と考えるが、建て替えも考慮の上で建築改良などの計画はどのように考えているか。</p> <p>(2) 今後の調理員確保に対する取り組みは。</p> <p>(3) 近年は民間による学校給食の提供が道内で大きく伸びているが、学校給食のアウトソーシングの考えはあるか。</p>
<p>3 1 番 佐藤 大輔 1 道の駅設置に向けた取組の進捗状況について (町 長)</p>	<p>町長は就任当初より「道の駅設置」を公約として掲げてきた。しかしながら就任から 5 年が経過し、昨年末の定例会において「旭川十勝道路のルートが見えてきた段階で、設置場所の検討に入る」との考えを示してはいるものの、道の駅の具体像や候補地、供用開始時期等について、町民に対し明確な方向性が示されているとは言い難い状況にある。</p> <p>そこで、以下の 2 点について町長に伺う。</p> <p>(1) 旭川十勝道路の IC 設置箇所について、想定箇所数は有限であると考えられる。IC 候補地を複数想定した上で、それぞれの立地条件を踏まえながら、道の駅の役割や機能を整理し、</p>

	<p>基本計画、少なくとも基本構想の策定まで進めることはできないか。</p> <p>道路ルート確定を前提条件とせずとも、将来の選択肢を狭めない形で検討を進めることが、結果として町民への説明責任を果たすことにつながると考えるが。</p> <p>(2) 道の駅設置を巡っては、観光振興や地域活性化への期待がある一方で、「これ以上、いわゆる箱物を増やすことは、将来世代に財政的な負担を残しかねない」「いずれ維持管理費が町の重荷になるのではないか」という財政面を懸念する声も少なからず聞かれる。近い将来、町立病院や子どもセンターの建設費償還が始まる予定である中、道の駅を整備する場合、現時点において、どのような資金計画、または営業収支を想定しているのか。</p>
<p>4</p> <p>6番 林 敬永</p> <p>1 クマ対策について (町 長)</p>	<p>今、北海道のみならず全国でクマの生態に明らかな変化が起きています。かつての「山に潜み、人を避ける」存在から、農作物の味を覚え、人や車を恐れず、白昼堂々と人里へ出没する個体、いわゆる「アーバンベア」の問題は、もはや他人事ではありません。本町においても、クマの目撃情報は、単なる「山沿い」に留まらず、これまで出没がなかった住宅地周辺にまで及んでいます。野生動物との共生という次元を超え、住民の「生存権」と「平穏な生活」が脅かされる事態であると考えます。そこで、この数年におけるクマの出没傾向に対し、行政としてどのような危機感を持って対応しているのか伺います。</p> <p>(1) 本町における直近3年間のヒグマ出没及び捕獲件数と、農作物への被害など現状について伺います。</p> <p>(2) 現在保有しているクマ用の箱わなが4基と聞いていますが、増設する考えがないか伺います。</p> <p>(3) クマ用の箱わなの購入だけでなく、監視カメラなどを活用した見守り機能付きのわなを導入するなどの対策を講じる考えがあるのか伺います。</p>
<p>2 太陽光発電のトラブルを防ぐために独自条例の制定について (町 長)</p>	<p>北海道内では太陽光発電施設の建設が急増し、森林伐採や景観への影響、土砂災害リスクの増大、住民合意の不足など各地でさまざまな問題が顕著化しています。</p> <p>再生可能エネルギーの推進は重要である一方、地域の自然環境や生活環境を損なう形での導入は避けなければならないと考えますが、本町においても、今後同様の課題が発生する可能性が否定できないことから、町としての姿勢と対応について伺い</p>

	<p>ます。</p> <p>(1) 再生可能エネルギー導入と自然環境・景観保全の両立について、町として、どのように位置づけているのか伺います。</p> <p>(2) 北海道内の複数自治体では、太陽光発電施設の設置に関する独自条例を制定しているところがあります。本町においても国や北海道の制度に依存するだけでなく、町独自のガイドラインや規制を設ける必要があるかどうか町長の認識を伺います。</p>
<p>3 避難所におけるアレルギー対策について</p> <p>(町 長)</p>	<p>災害時における避難所での「食の安全」、とりわけ食物アレルギー疾患を持つ避難者への対応について伺います。災害が発生した際、我々は避難所での生活、それも極寒の冬であれば厳しい避難生活を覚悟しなければなりません。体力を消耗する被災者にとって、温かい「炊き出し」は心身を支える命綱です。しかし、重篤な食物アレルギーを持つ方々にとって、その炊き出しが、一步間違えればアナフィラキシーショックという命の危険を招く「凶器」になりかねないという冷酷な現実があります。</p> <p>昨今の他自治体での被災事例を見ても、アレルギー対応の遅れから、配布された食事が食べられず、数日間わずかな備蓄だけで空腹に耐えたという声も聞きます。これは単なる配慮不足ではなく、「命の選択」を強いているに等しい事態にあります。</p> <p>そこで、行政としてどのような危機感を持っているのか町長の考えを伺います。</p> <p>(1) 避難所開設時、受付においてアレルギーの有無を確実に把握し、特に、緊急時でも見落としがないよう、アレルギー患者を識別するビブスやマークの活用、あるいは専用の名簿管理を標準化すべきと考えますが、町長の考えを伺います。</p> <p>(2) 災害時に、物流が途絶えた際、重篤な患者へ優先的に対応食を届ける「個別配送」や、専用の備蓄棚の設置など、必要な人に確実に届く仕組みが整っているのか伺います。</p> <p>(3) 災害時、管理栄養士や専門医による遠隔相談体制の構築や、近隣自治体とのアレルギー対応物資の融通に関する協定が必要ではないかと思いますが、町長の考えを伺います。</p>
<p>5 10番 井村 悦文</p> <p>1 小中学校のスキー授業の推進及び、リフト(索道施設)を活</p>	<p>北海道の学校で行われるスキー授業は、小学校から高等学校までスキー授業が行われることが一般的であり、地域文化の一環として非常に重要で、雪国ならではの自然環境を活かし、子どもたちにとっては冬の風物詩ともいえる活動であります。</p> <p>冬休みが終わると学校の授業としてスキーがカリキュラムに</p>

<p>用した観光振興について</p> <p>(教育長)</p> <p>(町 長)</p>	<p>組み込まれ、地域のスキー場を利用して実施されます。上富良野町の小中学校では、冬の学期に3回ほど実施されています。</p> <p>スキー授業は、単にスポーツとして楽しむだけでなく、体力づくりやチームワークの向上にも役立っており、また、スキー文化が伝承される場でもあり、スポーツの授業を超えて地域に根付いた文化として継続される重要な機会だと思えます。地域にとっても重要な教育プログラムとなっており、地元のスキー場の利用促進にも繋がっています。</p> <p>子どもたちは、冬の寒さの中でも外で活動する楽しさを感じ、自然とのふれあいを深め、スキーの技術だけでなく、雪のない所からの転校（転出・転入）によるスキー授業によって体験されたことにより生涯の趣味とされる方もおられます。</p> <p>その一方、保護者含め道具等、費用負担の大きさや、保護者によるリフトの乗り方や、基礎的な予備練習指導の難しさなど、多くの課題を指摘した声もあります。</p> <p>また、スキー場のリフト（索道施設）は設置から相当年数が経過し更新時期を迎えていると思うが、近隣自治体では観光施策に活用されているところもあります。</p> <p>そこで、スキー授業の推進に関し教育長に、リフトを活用した観光振興について町長に伺います。</p> <p>(1) 子供の成長は早く、1、2年で買い替えが必要になり、スキーの授業自体は年に数回しかなく、スキー道具一式を揃える金額に見合っていないなどの意見に対して負担軽減となるような手立ては考えていないのか。</p> <p>(2) 近くには北海道5大スキー場の代表的な世界有数のパウダースノーを楽しめる富良野スキー場もあり、子どもたちがスキー離れするのは勿論無いと思えます。日の出スキー場をより子育て世帯が親子で楽しめるように、要件つきでリフト代を無料にしては。</p> <p>(3) 日の出スキー場のリフトは滑走式リフト（Tバーリフト）で、昭和60年12月設置から既に41年経過している。近隣自治体ではスキー場のリフトを観光施策に活用し、好評を得ている事例がある。上富良野町もラベンダーフェスタ、ライトアップイベントに合わせ夏の営業も鑑み、チェアリフトを設置して観光振興を図る考えはないか。</p>
<p>6</p> <p>8番 中瀬 実</p> <p>1 町道の維持管理に</p>	<p>上富良野町には町道が路線で432本、町道の総延長は415km。そのうち一級路線は28本であり、車社会の現在すべての路線が生活上不可欠な存在であります。しかしながらこれらの路線</p>

<p>について (町 長)</p>	<p>は供用開始から年数が経過して経年劣化が多くみられ、路線状況は非常に悪い状態がみられる状況にあります。令和7年町道12路線の路面調査が実施されましたが、この調査の結果を元に今後改修工事が行われると思いますが、この調査の結果について伺います。</p> <p>(1) 今回の調査路線はすべて一級路線か。この調査の結果については。</p> <p>(2) オーバーレイで改修する路線は何路線か。</p> <p>(3) 路面地盤から改修する路線は何路線か。</p> <p>(4) 今後主要路線の路面調査をする考えはあるか。</p>
<p>2 空き家対策について (町 長)</p>	<p>人口減少・過疎化に伴い全国的に空き家が増え社会問題となっている。国は空き家対策の推進に関する特別措置法で増え続ける適切な管理がされない空き家（特定空き家）が地域に悪影響を与えるのを防ぐため2015年に施行した。その後、2023年改正された法律で、市町村による実態調査、所有者への助言、指導、勧告、命令が定められており、特に居住や使用されていない空き家、周辺に悪影響を及ぼす特定空き家が特に問題になると思われます。</p> <p>(1) 上富良野町で空き家は何件あるのか。そのうち特定空き家は。また、不良住宅は何件くらいあるのか。</p> <p>(2) 解体するための費用助成は住宅リフォーム解体助成の工事費50%上限100万円と工事費20%50万円しかないのか。また、新たな解体促進のための取組は。</p>
<p>3 全国学力・体力テストについて (教育長)</p>	<p>全国の小学校5年生、中学2年生全員を対象として文部科学省スポーツ庁が子どもの体力等の現状把握と向上を目的とした調査で、学力テストは国語、算数等、体力テストは握力、50m走等の実技、生活習慣に関するアンケートで構成され、毎年結果が公表されておりますが、そこで伺う。</p> <p>(1) 上富良野の子どもたちの数値はどのようになっているのか。</p> <p>(2) 教育委員会としてこれらの数値を踏まえ教育方針にどのように生かしているのか。</p>
<p>7 12番 小林 啓太 1 人口減少対策としての子育て支援に関</p>	<p>町では「上富良野町こども計画」を策定し子育て支援に係る各事業を推進している。町内に身近な親族を持たない単身世帯が多く暮らす上富良野町において、子育てのしやすさを高めることは、子育て世帯の定住意向を高め、次の子どもを産み育て</p>

して

(町 長)

ようとする意識にもつながり、結果として人口減少の抑制に寄与する重要な要素であると考えている。

上富良野町は、近隣市町村と比較しても、町の職員として保育士や助産師などの専門職が比較的多く配置され、妊娠期から出産後まで、専門的な知見に基づいた支援が行われているなど、子育て支援の体制は一定程度充実していると認識している。また、一時預かりやファミリーサポート事業など、子どもを預ける仕組みについても整備が進んでいると考えている。

官民様々なサービスが提供され、以前より子育てに係る困りごとを相談できる先が増えている一方、町内に身近な親族を持たない単身世帯、特に移住者など、地域とのつながりが薄い中で子育てをしている世帯が多く存在している現状においては、制度やサービスが存在していても、日常的な孤立感や不安を抱えやすい状況があると感じている。制度や相談先が整っている一方で、「急な残業で習い事の送迎ができない」「頼める相手が思い浮かばない」といった日常の小さな困りごとが、積み重なって孤立感につながっているのではないかと感じている。

そこで町長に対し以下5点について所感を伺う。

- (1) 子育て支援政策が担う人口減少の抑制についての町長の考えを伺う。
- (2) 現在の子育て支援の取り組みの中で、特に他自治体と比べて評価できる点や、本町の強みだと考えている点を、どのように捉えているのか伺う。
- (3) 支援体制や制度が一定程度整ってきた中で、町として、今後さらに強化していきたいと考えている分野や、現時点で感じている課題感は、どのような点にあるか、町長の問題意識を伺う。
- (4) 町内に身近な親族を持たない単身世帯が孤立しないために、どのような点で行政として関わる余地があると考えているか伺う。
- (5) 本町では、ファミリーサポート事業を、こどもサポート富良野という法人に委託する形で実施しており、民間の専門性や柔軟性を生かした取り組みが行われていると認識している。一方で、町としては、法人の主体性を尊重するという観点から、その活動に対して積極的に関与することには慎重な考え方もあるのではないかと感じている。しかしながら、子育て世帯の孤立感を解消し、地域の中でのつながりを広げていくという政策目的を共有することと、法人の自主性を尊重することは、必ずしも矛盾するものではないと考える。

	<p>先日、ファミリーサポート事業についてヒアリングを行ったところ、担い手側の負担感やサポーター会員の処遇の在り方について課題感を聴収した。</p> <p>そこで、町として、こどもサポート富良野をはじめとする民間団体を、単なる事業の委託先としてではなく、子育て支援や人口減少対策をともに担うパートナーとして位置づけ、官民連携によって新たな可能性を広げていく考えはあるのか。また、その際に町が担うべき役割について、町長の見解を伺う。</p>
<p>8</p> <p>7番 茶谷 朋弘</p> <p>1 持続可能な地域経済の構築に向けたデジタル地域通貨の導入について (町 長)</p>	<p>近年の物価高騰は、町民生活や地域経済に大きな影響を与えており、本町においても給付金の支給やプレミアム商品券の発行など、迅速かつ的確な支援策が講じられてきました。これらの取り組みは町民の生活を下支えするとともに、地域消費の喚起にも一定の効果があったものと評価しております。</p> <p>一方で、給付金は町外で消費される可能性があり、必ずしも地域内の経済循環につながらないという課題も指摘されています。また、紙媒体による商品券事業は分かりやすい反面、印刷費や換金事務などの行政コストが継続的に発生するほか、職員の負担、利用状況の詳細な把握が難しいなどの課題も指摘されており、行政運営の効率化や政策効果の検証という観点からは改善の余地があると考えます。</p> <p>こうした中、近年はデジタル技術を活用した地域通貨を導入し、給付金や経済対策と連動させることで、「支援」と「地域内消費の促進」を同時に実現している自治体が増えております。地域通貨は単なる決済手段にとどまらず、地域経済の循環を強化し、持続可能なまちづくりを支える基盤となり得る仕組みであると考えます。</p> <p>そこで、本町における地域経済の活性化と行政施策の効果最大化の観点から、デジタル地域通貨等の導入について以下4点について質問いたします。</p> <p>(1) これまで実施してきたプレミアム付商品券事業について、効果検証は行ってきたか。また、紙媒体による課題はどのように認識しているか。</p> <p>(2) 導入している自治体が増えている地域通貨について、町はどのような認識をしているのか。</p> <p>(3) 地域通貨導入の可能性についてどのような調査・研究が行われてきたか。</p> <p>(4) 将来的に地域通貨を地域経済の基盤として整備する考え</p>

<p>2 上富良野町におけるスポーツ振興を支える運動環境の整備及び指導体制の強化について (教育長)</p>	<p>はあるか。</p> <p>町民の運動機会の提供と運動習慣の定着を図る施策は、健康長寿のまちづくりや、スポーツ活動を推進する重要な取り組みであると考えます。</p> <p>当町もスポーツ振興に関わる色々な施策が進められているものの、働き世代や若年層を含めた幅広い年代が日常的にトレーニング等の運動できる環境は、近隣自治体と比較した際、必ずしも充実しているとは言い難く、スポーツ振興施策を推進する上での課題の一つであると考えます。</p> <p>トレーニング等の運動できる環境整備は、部活動に取り組む子どもたちや競技力向上を目指すアスリートにとっても重要であり、スポーツ振興の観点からもその充実が求められているのではないのでしょうか。</p> <p>ハード整備に加えソフト面の充実も含め、以下3点について伺います。</p> <p>(1) 上富良野町におけるトレーニング等の運動環境の現状と課題について、どのように認識しているのか。</p> <p>(2) 幅広い世代が継続的に利用できるよう、既存施設の機能向上や設備更新を含め、トレーニング環境の整備を今後検討する考えはあるのか。</p> <p>(3) 町民の運動習慣の定着を図るため、新たに運動指導を行える専門人材の配置や、外部人材の活用を検討する考えはないか。</p>
<p>9 2番 荒生 博一 1 観光振興策について (町 長)</p>	<p>令和8年度予算の審議が今後行われる中、依然として歳入の多くを依存財源が占める脆弱な財政構造に変化がない状態が続いている。</p> <p>そのような中、観光振興に係る行政経費においては、その多くを一般財源から充当しているのが現状であり、第3次上富良野町観光振興計画の基本方針に掲げられている観光インフラの整備など、近年増加傾向にあるインバウンド需要などに対応すべく予算は確保できるのであろうか甚だ疑問である。</p> <p>昨年9月の定例会で、私は、持続可能な観光振興に必要な財源確保のため、今や当町の最大集客イベントである「ラベンダーフェスタかみふらの」の駐車場の有料化や、イベントそのものの有料化を提案したが、その後検討はなされているのか。また、北海道は本年4月より「北海道宿泊税」を導入し、観光の付加価値向上、受入体制の整備、災害など観光分野の危機管理</p>

	<p>対策など、持続可能な観光振興を図るための財源として活用することを決定した。</p> <p>当町の魅力ある観光資源の磨き上げと、今後の持続可能な観光振興策の展開には、自主財源確保が喫緊の課題であると考え</p> <p>る。</p> <p>そこで以下4点について伺う。</p> <p>(1) 自主財源確保のための「ラベンダーフェスタかみふらの」の駐車場有料化やイベントそのものの有料化の検討は進んでいるのか伺う。</p> <p>(2) 昨年の「ラベンダーフェスタかみふらの」のライトアップ期間中の渋滞が課題となっていたが、本年度の対応策について伺う。</p> <p>(3) 町民皆が望んでいる花火大会実施について、昨年度は残念ながら実施には至らなかったが、今年こそ実施していただけるのか伺う。</p> <p>(4) 北海道の「北海道宿泊税」実施を受け、当町では今後宿泊税導入の検討をされるのか伺う。</p>
<p>10</p> <p>4番 米澤 義英</p> <p>1 クリーンセンターについて (町 長)</p>	<p>一般廃棄物を処理するクリーンセンターは共用開始から25年が経過し、補修等をしながら施設の維持管理をしている。町は今後の一般廃棄物の処理体制を考えれば新設より他の自治体で構成する清掃組合への加入を検討しているが、その内容について議会や住民にしっかりと説明をすべきだと考えるが、次の点について説明を求める。</p> <p>(1) 修繕をしながら存続、新設や他の組合に加入したときの費用対効果について。</p> <p>(2) 住民はごみ処理施設が地区からなくなることや、ごみ処理手数料の見直しへの不安等があり、何よりも一般廃棄物処理体制について、行政は住民や議会に説明責任があると考え</p> <p>るが。</p>
<p>2 終活情報などの登録事業について (町 長)</p>	<p>町においても高齢者や独居高齢者が増えている。高齢者支援では町や社会福祉協議会、関係団体が緊急時の対応をしている。</p> <p>また、近年では終活の関連情報を自治体に登録をしてもらい、本人が意思表示できなくなったり、死亡したりしたときに、本人の望みを実現につなげる目的で、身寄りがない高齢者への支援策として、自治体で終活登録事業が実施されてきている。</p> <p>町においても高齢者や独居高齢者等の現状を踏まえた今後の対応等について伺う。</p>

<p>3 合葬墓について (町 長)</p>	<p>火葬場が老朽化して令和8年度より中富良野町で火葬場の共同利用が始まるが、住民から要望がある合葬墓についての対応ははっきりしていないが、今後の対応について伺う。</p>
<p>4 日本語学校について (町 長)</p>	<p>外国人を対象とした日本語教育を行う機関として、進学や就職、日本の文化を学ぶ目的で設置されて来ている。</p> <p>町においても外国から仕事などで来ている人もおり、生活をするために不安を感じている人もいる中、それらへの支援や対応が必要と考える。</p> <p>そこで以下3点について伺う。</p> <p>(1) 現在、就労などで来ている外国労働者の実態について伺う。</p> <p>(2) 就労などで来ている人達の生活を支えるための交流の場の提供を考えないか。</p> <p>(3) 日本語学校の設置が必要と考えるが。</p>

